

1 学校教育目標 郷土を愛し、自立と共同の姿勢でたくましく生き抜く児童生徒を育成する。	2 本年度の重点目標 ①あいさつと歌声が響く学校づくり②小中一貫の特性を生かす③開発的生徒指導を行い、いじめをなくす④思考スキルとノート指導の推進⑤児童生徒会の活性化、自ら動く児童生徒の育成⑥開かれた学園コミュニティスクールを目指す⑦特別支援教育の推進
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学校経営の充実及び安全教育の徹底

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	学校経営方針	本校教育目標の周知	・保護者・地域・児童への教育目標の周知をはかり、認知度を70%以上にする。	・町広報紙に掲載したり、メール等に常時掲載したりして周知を図る。 ・経営案や自己目標申告書に学校目標を現状と合致した案作りに努める。
	危機管理	児童生徒の安全を守る取組の徹底	・安全対策について保護者へ周知し、危機管理意識を高める。	・警察や町防災担当と連携し、年間3回の避難訓練を実施する。
	開かれた学校	保護者や地域の方々の学校行事や運営への参加推進	・総合や社会科において地域の方を登用した授業を積極的に行う。	・授業に地域の方を登用し、地域連携を進める。 ・学校評議員会等に地域の方々に参加いただき、情報発信に努める。

②学力向上及び心の教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●学力の向上	思考力・活用力の育成	・12月の学習状況調査において、前回のポイントを+3上回る。 ・自主学習を促し、学習の定着を図る。	・グループ活動を中心とした授業展開を行い、児童生徒の積極的な言語活動を促す。 ・自主学習帳New Friendの使い方を紹介したり、学年に応じた自主学習をしたりして、9年間のノート活用を深めていく。
	●心の教育	望ましい集団作り	・元気に挨拶ができる児童生徒を70%以上にする。	・挨拶について児童生徒会と連携し、自分たちのめあてを決め実践させる。 ・保護者や地域の方々など、誰に対しても気持ちのよい挨拶ができるよう継続して指導する。
	●いじめの問題への対応	人権意識の醸成	・段階に応じた「人権集会」による心の教育と「なかよし集会」による人間関係づくりを行い、自己肯定感を高める。	・人権について集会活動を行う。その後、発達段階にあった指導を各教室で行う。なかよし集会では共有する楽しさにふれることができるように、仲間づくりの視点で集会を計画する。 ・Q-Uテストや生活アンケートを活用し、人間関係について把握する。

③健康教育及びICT利活用教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●健康体づくり	体力向上	学級通信やアンケートを通して立腰の意義の理解と啓発を行い、「正しい立腰の姿勢で学習に取り組んでいる」とする児童生徒、教職員の割合を、90%以上にする。	・部活動に参加させ、日常域に体を動かす習慣を身につけさせる。 ・昼休みの外遊びについて委員会が窓口となり、紹介をし、外遊びを奨励する。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	思考力を高めるICT利活用	興味関心を高め、理解を促すだけでなく、思考力を高める。 職員対象のICTスキルアップ研修の参加者の満足度を80%以上にする。	・電子黒板(デジタル教科書、関係資料)を活用し、学習への関心意欲を高めるとともに、基礎・基本の定着を図る。 ・平常時と長期休業時のICT研修を実施方法を工夫することで、職員の自主的研修参加の雰囲気を醸成する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	○母校の誇り作り	歌声が響く学校	行事等で「校歌を大きな声で歌う」の項目に80%以上の児童生徒が回答することをめざす。	・朝の会等を活用し、校歌を歌う場面をつくる。 ・音楽の素晴らしさにふれる機会を学期に1度は計画する。また音楽祭等の発表の場に進んで参加をする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目